

シニア便り

第35号(2017年12月発行)
発行：北海道シニア吹奏楽団・事務局
編集：シニア便り編集部

- 第24回定期演奏会を終えて
団長・常任指揮者 中村 暁生
- 定期演奏会を終えて
実行委員長 阿部 薫
- 定期演奏会・エピソード集
- 第25回定期演奏会に向けて
実行委員長 畠山 敬
- シリーズ:シニアのルールを解説(Q&A)
コンプライアンス委員会 鈴木 隆起
- シリーズ:団員のことをもっと知ろう!
長岐 繁行
- 新入団員の紹介
ホルン 中野 吉朗
アルトサクソ 能登 あつ子
チューバ 岡崎 裕司

第24回定期演奏会を終えて 団長・常任指揮者 中村 暁生

第24回定期演奏会は実行委員会の綿密な計画と周到な準備、団員皆様のご協力によりほぼ満員のお客様に充分満足していただける時間を提供して無事終了しました。

練習の段階から終了まで、各分野に於いて演奏会の成功のために力を尽くして下さった全ての団員の皆様に対し、団長として心から深くお礼申し上げます。

この演奏会を通して私が感じたこと、新しい発見について次に申し述べます。

「ボギー大佐」の最初のD♭の和音から「輝けシニア」の最後のE♭の主和音が鳴り終わるまで、

プレーヤー全員の表現しよう・伝えようとする意欲の集積が強い圧力となって指揮者に迫ってくるのを初めて感じました。

それはお客様にも伝わり感動を与えたものと確信しています。

音楽は文学や美術など他の芸術と比べて最も大きく異なるところは、作られ発せられた音は一瞬のうちに消えてしまい訂正も書き直しも出来ないことです。

時間とともに流れ消えてゆく一つ一つの音を作るために努力を重ね、その音に想いを込めて空間に解き放つ、その繋がりや重なりが聴く人に何らかの共鳴を呼び起こす、それが音楽の本質だと思います。

また一方で音楽が成り立つためには、曲(楽譜)と演奏者、本人を含む聴く人プラス場所(空間)が必要です。もとより不特定多数の聴衆と場所を想定して作られるCDや動画もあり、それも音楽の一分野ですが、音楽の本当の姿は定められた時間と場所での演奏者と聴衆によって作られる音空間、いわゆるライブにあると私は思います。

お客様へのアンケートの中で指摘されたとおり、まだまだ音程や音型の不揃い、和音の透明感やバランスにも課題はたくさんありますが、今回の演奏会で皆さんが示してくれた音楽表現に対する強い想いと意欲が何よりも大切であると痛感しました。

改めて団員皆様に感謝申し上げますと同時に、皆様とともにさらなる向上を目指して努力していきたいと思っています。



第24回定期演奏会を終えて
実行委員長 阿部 薫

第24回定期演奏会を終えて今思うことは、多くの方たちのお力添えと励ましに支えられたと実感しています。紙面をお借りして御礼申し上げます。

実行委員長を決める日、誰も手をあげることも無く、推薦すら遠慮がちな雰囲気「沈黙の1時間」発足前から薄々感じてはいたものの「実行委員長は荷が重い！きっと誰かが」と無責任に思う反面「そろそろ、そんな時期なのかなあ？」と心は葛藤していました。そんな中、皆さんからの協力し合ひましょう。の言葉で「私やります」と言ってしまいました。これまで、演奏会の運営には数多く携わり、シニアでは7回目ですが、実行委員長は初めての事。改めて仕事量の多い事（自分で仕事増やしていない？ の話しも）にちょっぴり後悔。家事が手抜きになった事は言うまでもありません。演出面にも少し不安がありました。初めてステージスタッフをお願いした事や休憩時間を久しぶりに2回にした事などでした。混乱を招かないように事前準備には時間を要しましたが、言葉通りスケジュール管理、ステージマネージメント、外部交渉、会計、チケット、当日の役割りに至るまで、実行委員の皆さんは自主的に仕事をこなして下さいました。結果団員の皆さん、お客様にも楽しんで頂けたと自負しています。

ですが、課題もあります。広告や協賛金の資金面、受付など裏方支援など方向性や考え方など、全団員が今一度考える時期に来ているような気がします。OBからも「大成功でしたね」のお言葉と同時に時間配分、作業効率の良し悪しなど助言も頂きました。次の実行委員会へしっかり引き継ぎたいと思います。

最後に、常に気遣い声掛けして下さいました。団員のみなさまありがとうございました。



♪ 定期演奏会のエピソード集 ♪

《 楽しかったこと 》

- 小学生との共演や小学生の踊りが楽しかった。
- コパカバーナのパーカッションがそろったこと。
- キッチン変奏曲 → 盛り上がっていた。

《 辛かったこと 》

- 当日は朝からほとんど立ちっぱなしで足腰がつかった。
- プスタ3楽章 ボーっとしちやって小節数え間違った。

《 新発見：普段見せない〇〇な素顔 》

- 実行委員が一丸となれた。
- キッチン隊の皆さんのお茶目な後ろ姿。
- 中村先生のエプロン姿が思いのほか似合っていた。また、オレンジ色のシャツもお似合いだったところ。

《 みんなに教えたエピソード 》

- ご飯休憩の時に味見させてもらった、おっと味のアイスが美味しかったー。
- 色々な店でフライパンを叩いてみた。(キッチン楽器を探す旅に出た)
- キッチン変奏曲で目玉焼きエプロン姿が可愛らしかった。
- リハ当日朝、上差し歯取れて歯科医に飛び込み応急処置でリハに挑む。
- キッチン パーカス頑張りましたよ。



第25回定期演奏会に向けて
実行委員長 畠山 敬

来年10月14日（日）第25回定期演奏会の実行委員長を拝命致しました。

パーカッション畠山です。私を含めたパーカッション・パートの他「サクソ・パート」「ユーフォチューバ・パート」で構成されました各実行委員の皆さんと共に、団創立25周年の記念演奏会を成功させるべく頑張りたいと考えております。今回は特にメインテーマは決めず、シニアの基本理念であります「音楽を楽しむ！」をモットーに「明るく」「ノリの良い曲」を中心にセレクトしたいと考えております。演奏側が楽しんで演奏していることはお客様にも自然と伝わると思っています。中村先生を中心に団員の皆様の協力を得ながら、当日まで進めて参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。



シリーズ:なるほど Q&A(その7)
シニアのルールを
分かりやすく << 解説! >>

Q7:「休団」と「退団」の違いは?

A7:練習への復帰を前提にしつつ、一定期間、団費を免除するのが「休団」ということになります。

休団は休団中でも団に籍があり、復帰の場合は無条件に復帰できますが、期間中、団費を免除しますので、団費を逃れるために休団の制度を乱用するようなことは厳に慎まねばなりません。

また、休団理由についても納得できるものでなければなりませんし、その内容が虚偽のものであることが判明した時は、免除した団費を改めて請求したり、処分に発展する可能性もあります。

一方、「退団」は、復帰を前提とせず、団から除籍するということになります。

一旦退団した方が再び当団で演奏活動しよう

とする場合は、再入団になります。

再入団は、ほとんど想定していないので、決まったルールはありませんが、退団した際の理由が消滅していることが第1の条件になるのは当然のことです。

また、退団時の理由によっては、再び仮団員で入団のうえ、しばらく様子を見るなど、団員としての資質を再確認することもあります。



(文責:鈴木隆起
監修:コンプライアンス委員会)

団員のことをもっと知ろう! #017
トロンボーン 長岐 繁行

今回は、トロンボーンの長岐さんです。長岐さんは蟹座・O型・寅年で奥様思いの長岐さんに色々とお聞きしました。(編集部 記)

- 音楽以外の趣味:パソコン(初級システムアドミニストレータ)、アマチュア無線、写真撮影
- どんな仕事をしていますか(していましたか)? : 前職:自衛官、現職:金物店店員(夏場はストーブオーバーホールがメイン)
- 好きな本:海賊と呼ばれた男、電子立国日本の自叙伝
- 好きなミュージシャン:ビートルズ
- 今やっている楽器以外でやってみたい楽器:バイオリン
- 私の意外な一面:エレキベーシスト。元トランペッター、対人恐怖症
- 自分をたどるならこの楽器(理由も):ベース、目立たず存在感がある。
- 今まで本番であったアクシデント:楽器が壊れた(F管の紐が切れた)
- 今の楽器を選んだ理由:上司による
- これからの夢や目標:現状維持
- 団員へひとこと:もっと音楽と人生を楽しもう。
- 出身地:小樽市
- 自分の性格:せっかち、独りよがり、おせっかい。

- 好きな音楽のジャンル：ロック、クラシック、ジャズ。
- 好きな〇〇：分野 天文、自然
- 思い出の〇〇：
景色-アラスカ・
フェアバンクスで
のオーロラ
ハワイ島・マウナ
ケア山山頂(4200m)
からの星空



♪ 新入団員の紹介 ♪

ホルン 中野 吉朗

中学の時にフルート吹き姉の影響で吹奏楽部に入り、ブランクを何度か繰り返しながら今に至ります。シニアに入る前も四年ほどブランクがあり、中々上手く吹けず皆さんにご迷惑をかけております。あがり症でたまに手がフルフルしています。ピピラートは上手いです。よろしくお祈りします。

アルトサクソ 能登 あつ子

きっかけは、中学時代、吹奏楽で、アルトサクソを吹き始めました。ボギー大佐は、懐かしい曲の1つです。何年前か前に、シニアの演奏会を見させていただいて、いつか、機会があったら… と、思っていました。年は十分に熟していますが、まだまだ、未熟者で、いろいろご迷惑おかけすると思いますが、どうぞよろしくお祈りいたします。



チューバ 岡崎 裕司

皆さん、こんにちは。
今年の6月より正団員となりました、チューバの岡崎です。
簡単な自己紹介です。
出生地は浦河で昭和35年生です。(本年57歳)

チューバは中学校より始め高校までの6年間吹きました。その後仕事柄転勤があり楽器は吹けず、平成10年より約20年程度のブランクがあるもチューバを吹く事になりました。今年吹奏楽団の活動状況などをネットで検索したところシニア吹奏楽団の運営状況・練習風景等…を拝見して是非この団の方々と吹く事が出来たらと思いメールをしました。募集はしていない状況でしたが、副団長より見学可との返答頂き無事団員となる事が出来ました。現在は団長を中心にメンバーの皆さんに支えていただき楽しい音楽が出来ています。今後も精一杯努力しますので宜しくお願いします。

=====
編集余録
=====

◆今年難しい曲の演奏会が続いて大変でしたね。
本当にお疲れ様でした。これから、寒い日々が長い間続きますが、暖かくして過ごしましょう。来年もよろしくお祈りします。
(高橋 由美)

◆来年2月12日のシルバーハーツ・ロビーコンサートは数えて9回目になります。
このコンサートは、今から10年前、元事務局局長だったテナーサクソ渡辺順三さんが、自宅の隣にできた「シルバーハイツ中島公園」から定期演奏会プログラムの広告を頂いてきたことがきっかけで始まりました。シルバーハイツはそれ以来の北海道シニア吹奏楽団の大事な支援者でもあります。
(伊藤 英明)

♪ 原稿や要望を募集しています。 ♪
音楽に関することで、こんなことを知って欲しい、こんなことを教えてほしい。など、
お気軽に編集部までお知らせください。